

# 土倉の森ハンドブック

NAGAHAMA FOREST AND MOUNTAIN VILLAGE RESOURCE CENTER  
**Tsuchikura Forest Handbook**

ながはま森林マッチングセンター

森と人とのつなぎ方を考える



森 × 人

山には豊かに資源があるっていうけれど、  
どんな活かし方があるのか。

自然は大切だというけれど、  
どうやって守ればいいのか、  
どうして守らないといけないのか。

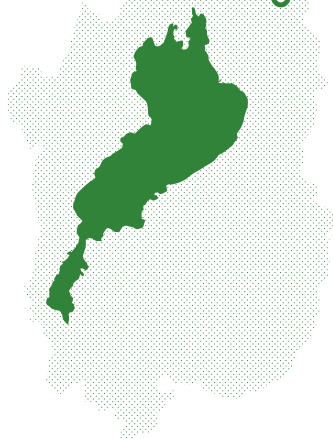
自分の日常に少しだけ山を自然を取り入れてみる。  
そんな生活ができないか。

いろんな思いをつないで、ひろげて、変えていく。  
そのきっかけになればと、  
ながはま森林マッチングセンターは考えています。

# 01



土倉の森・金居原集落

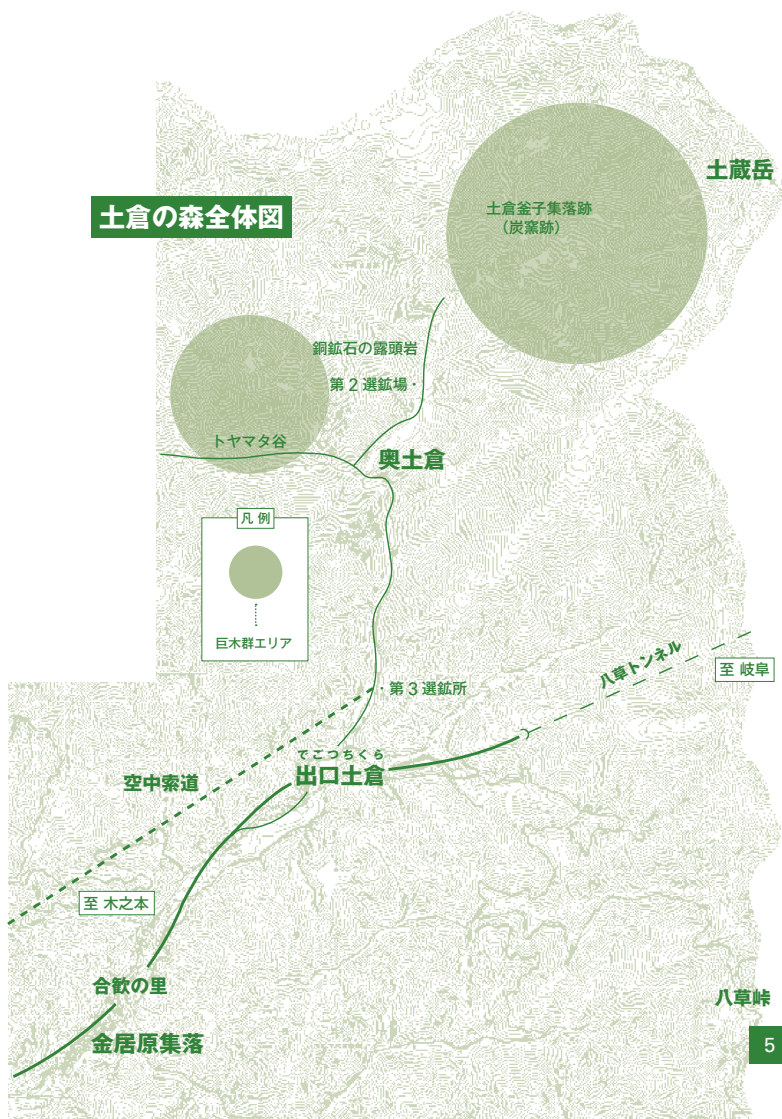


## 土倉の森・金居原集落について

JR木ノ本駅／北陸自動車道木之本ICから車で20分。長浜市東部に位置する山あいで、杉野川の流りに沿うように家々が並ぶ。集落東端の八草トンネルを越えると岐阜へ入る。1100年以上前、木材資源を求めて摂津からやってきた6人が拓いたと伝わる。昭和35

年当時の世帯数は180、その大半が、山の仕事か土倉鉱山に従事したが、電気・ガスの台頭と鉱山の操業停止時期が重なり、集落を離れる人が急増した。

### 土倉の森全体図





# 02

## 土倉鉱山と土倉の森の歴史

西 暦	主な出来事
900	木材を求めて摂津から6軒が移住し開拓(金居原六軒伝説)
1000	大阪から探検家に来て伐採を始め鉱石を発見し地名が金居原となった(伝説)
1682	彦根藩が御用炭「黒木」の焼き出しを命ずる
1906	金居原木炭改良社設立。「金改炭」の銘柄で売り出す。
1907	岐阜県安八郡の中島善十郎が奥土倉で銅鉱露頭を発見
1910	田中鉱業株式会社(田中銀之助)により土倉銅山の採掘がはじまる。
1917	杉本丹生トンネル着工。工事費は全額鉱山会社が負担
1928	土倉鉱山に自家用水力発電所完成
1934	土倉鉱山を日窒肥料株式会社が買収。 奥土倉で雪崩発生、住宅倒壊、死者4人
1937	木之本硫酸工場操業開始、日産80トン生産
1937	社名が「日窒鉱業開発株式会社」に。 土倉・木之本間に13.2kmの空中索道開通
1940	事務所を奥土倉から出口土倉に移転

1942	出口土倉に最新式の浮遊選鉱場が完成
1943	土倉には戦時下増産体制で従業員500人、家族含め1500人が暮らす(竹村進氏手記より)
1959	9月26日伊勢湾台風襲来。土倉イカタバで山崩れにより社宅2棟が埋まる。10人死亡。自衛隊出動。他の住宅も浸水被害。 林道の橋はすべて流失
1960	家庭にプロパンガスが普及し木炭の需要がなくなる。
1965	8月土倉鉱山閉山
1992	金居原に水力発電所建設の計画
2002	水力発電所所建設計画中止
2014	巨木伐採の情報、現地調査の結果数十本規模の巨木林の存在が判明、伐採回遊に向け協議
2015	トチノキ巨木等の所有権について訴訟が始まる
2018	伐採業者への解決金が支払われ訴訟が終了、金居原の歴史と森を守る会結成、ながはま森林マッチングセンターによるエコツアーがスタート
2020	土倉の森ガイド養成講座スタート
2021	もりのもり結成
2022	旧土倉鉱山第3選鉱場と坑道口に進入防止柵建設
2023	もりのもりによるエコツアーがスタート

# 03

## 確認された 240 本の巨木

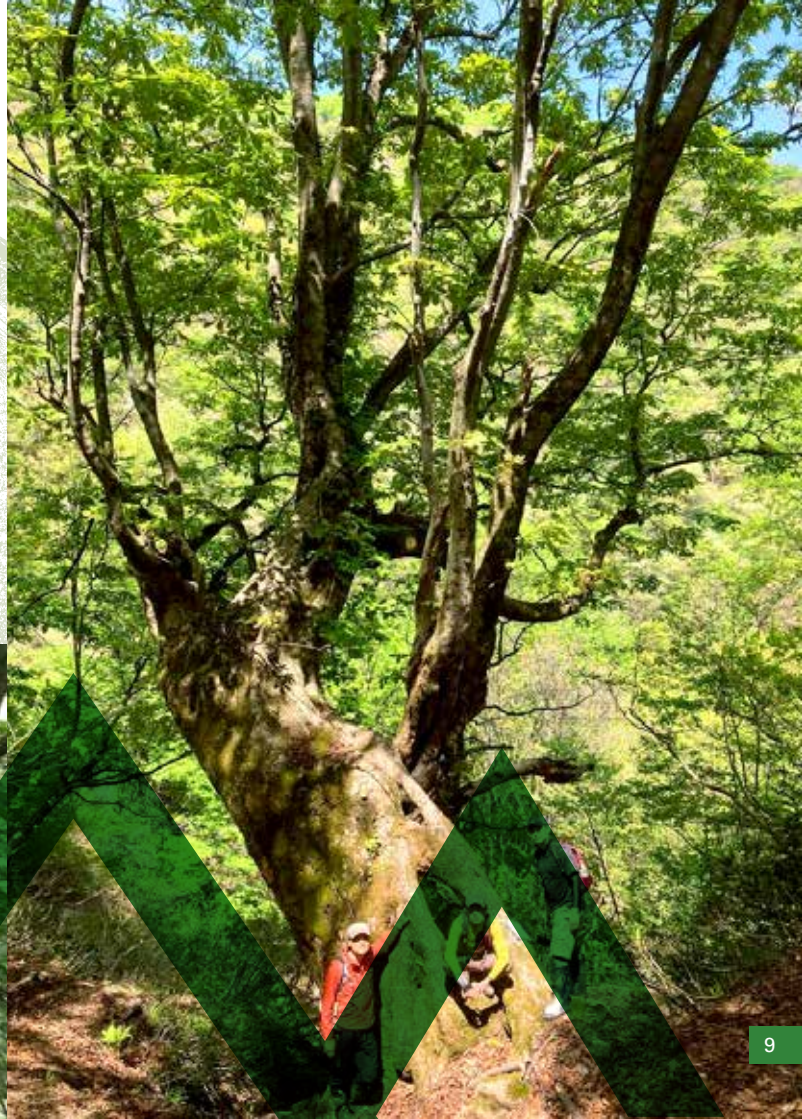
巨木とは地面から1.3mの高さで幹回りが3m以上のものを言います。

調査の結果、土倉の森には 240本もの

巨木が存在することがわかりました。

トチノキ (211本)のほか、ブナ (7本)、  
サワグルミ (6本)、ケヤキ (5本)、ハリギリ (3本)、  
ケケンボナシ (2本)、クリ (2本)、イヌシデ (2本)、  
エンコウカエデ (1本)、カツラ (1本)  
が確認されています。

現在これらの木々のほとんどは市民団体によるトラスト  
や県の協定により伐採の危機から守られています。



トチノキ(幹回り6m40cm)







# 04

## エコツーリズムの取り組み

ながはま森林マッチングセンターでは巨木群や鉱山跡をはじめとする土倉の森の魅力を多くの方に知っていただくため、2018年からエコツアーを行ってきました。

ツアーの実施は2023年からは地元団体「もりのもり」に引き継がれています。

ツアーについての情報は「もりのもり」ホームページへ  
<https://mori-no-mori.com/>





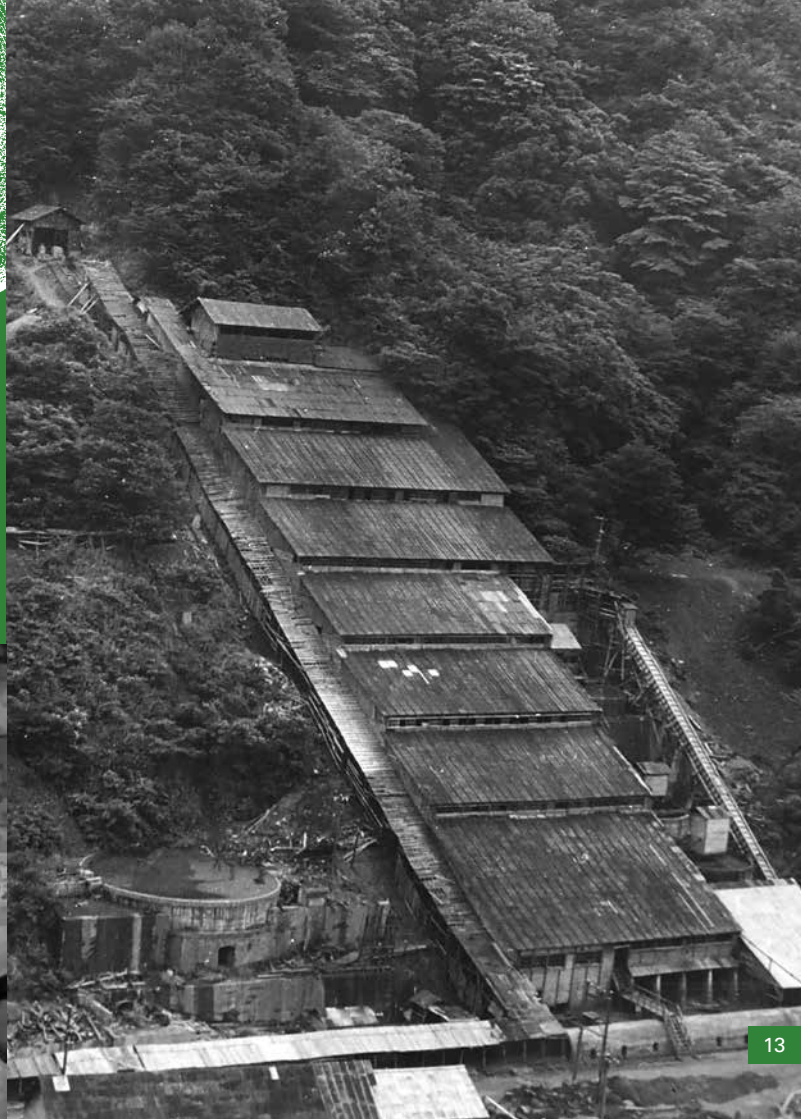
# 05



## 土倉鉱山の生活の聞き取り

土倉鉱山操業時の写真を通して、  
当時を知る人からその様子をお聞きする  
写真展「土倉鉱山の思い出」を  
2022年から開催しています。

土倉鉱山の仕事だけでなく、そこで暮らす生活の様子も  
たくさんお聞きすることができました。



# 05 -2

## 写真展で寄せられた聞き取りの一部

選鉱場の屋根が急で、屋根雪が勢いよく落ちて危なかった。けが人が出たときはトラックの荷台にロープを渡し、その上に布を敷いてなるべく揺れないように工夫して運んだ。道がよくなかったの。

中町の長屋に住んでいた。4 時頃になると近所の子たちと暗くなるまで遊んでいたことがとても楽しい思い出

建具屋をやっており、土倉鉱山より材料支給があって金居原で工作して鉱山資材庫へ納品に行った。材料は粗悪なもので、作るのが大変だったし冬で壊れること多くよく直しに行った。冬に納品の時は雪の上を背負って歩いて行った。

上町の長屋に住んでいた。オゲツラ谷の写真の一番右上の長屋に居て、伊勢湾台風で川がえぐれ玄関前まで川が来た

【映画館】毎週日曜日だったか映画を上映していた。当時としてはとても文化的だったと今は思っている。運動会は華やかで仮装行列など多くの人でにぎわう。

【弁当】当時炭焼きは現金収入はなかったが鉱山に勤める人は給料をもらっており、子供の弁当のおかずはソーセージなど私らが食べないものだった。

硫化鉄や銅は泥の塊。タンクにたまったものをバケツが足元に来て乗せやすいようになっていた。

【鉱石】索道と言ってケーブル(トロック)で鉱石を木之本まで運んでいた。頭の上には索道の音が常に鳴っていた。時折人が乗り注油をしたのか学校の帰り道落ちていた鉱石を拾った

父が土倉で運転手をしていました。上司や見学者を乗せていた。時には秩父まで上司を乗せていき夜中に帰ってきていた。

索道がよく落ちた。伊香高の窓から見えた。1 台落ちると続けてガッシャーんと 3 台くらい落ちた。

ボーリングの仕事。坑内地図をもとに北へ何度など指示されており、その方角へ掘り進めていた。掘近だけで肺の病で 7 人死んだ。

トヤマタの作業小屋の人が子守をしてくれた。炭焼など山仕事に子供を背負って行くとコンプレッサー室に勤めている知り合いがしばらく見てたると声をかけてくれた三学期(冬)だけ給食を作り金居原から歩いて分教場に行っていた。

金居原から土倉へ自転車、バスで通勤。索道 8 年、荷物積み込み→選鉱したものと塊鉱も運んだ。坑内 8 年勤め

木炭車。ドラム缶のような炉があって、燃焼させたガスを内燃機関に送り込む。手動の送風機だかポンプだかそのガスにスパークプラグで点火する。エンジンの仕組みは蒸気機関ではない。運転手と炉、送風係の 2 名で運行した

索道のメンテナンスは専門の人がやっていた。わしらが見ても怖い作業でバケツに乗って鉄塔の油さしに回った。

鉱山工作課に 4 年勤務。昭和 32 年選鉱場増設。インクライン移設があった。鍛冶工場に主に勤めていて、鍛などの手工具から採石バスケツト、ポンプなどの設備を作ったり、修理をしていた。坑内へは修理・交換などで部品をトロックに乗せて入ったり、エレベーターを使ったこともあった。



# 06



## 電子顕微鏡やメタバースによる 新たな森の魅力発信

長浜バイオ大学の奈良篤樹准教授は  
土倉の森の植物や自然、鉱山遺構などを材料に  
電子顕微鏡による画像やメタバース空間の  
構築などで新たな森の魅力を発信しています。  
その一部をご紹介します。

トチノキの電子顕微鏡画像



花粉



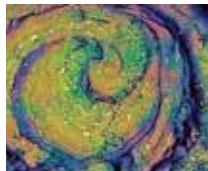
夏の茎



花びら



秋の葉、気孔



冬芽



メタバース空間



秋の葉

## その他の取り組み

# 07

### —— 森のおそうじカフェ

森に通う中で大量の不法投棄のゴミの存在があらかになりました。そこでこれを片付けて、きれいになった場所で野外カフェを楽しもうという企画をおこないました。

(2021年8月28日実施)



### —— トークミーティング土倉の森のこれから

2022年3月に BIWAKO PICNIC BASEで開催した「土倉の森博」会期中に開催。行政、地元住民、その他関係者らが登壇し、集まった一般参加者とともに意見交換を行いました。

それぞれの角度から土倉の森についての今後を考える機会となりました。

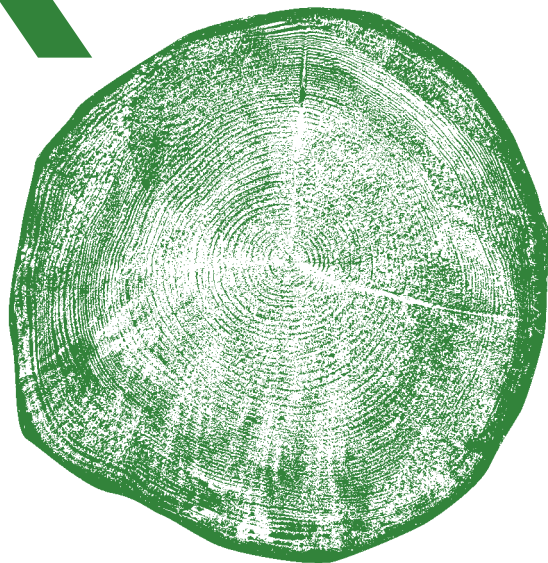
(2022年3月7日実施)



### —— トチノキサミット

トチノキ巨木群が存在する滋賀県内の3地域(朽木・余呉・木之本)の活動団体が集まった意見交換会に協力しました。

(2022年11月23日合歡の里で開催)



製作・編集

ながはま森林マッチングセンター

NAGAHAMA FOREST AND MOUNTAIN VILLAGE RESOURCE CENTER

〒 529-0425 滋賀県長浜市木之本町木之本 1757-2 長浜市役所北部合同庁舎 3階 TEL 0749-82-5070





NAGAHAMA FOREST AND MOUNTAIN VILLAGE RESOURCE CENTER

## Tsuchikura Forest Handbook